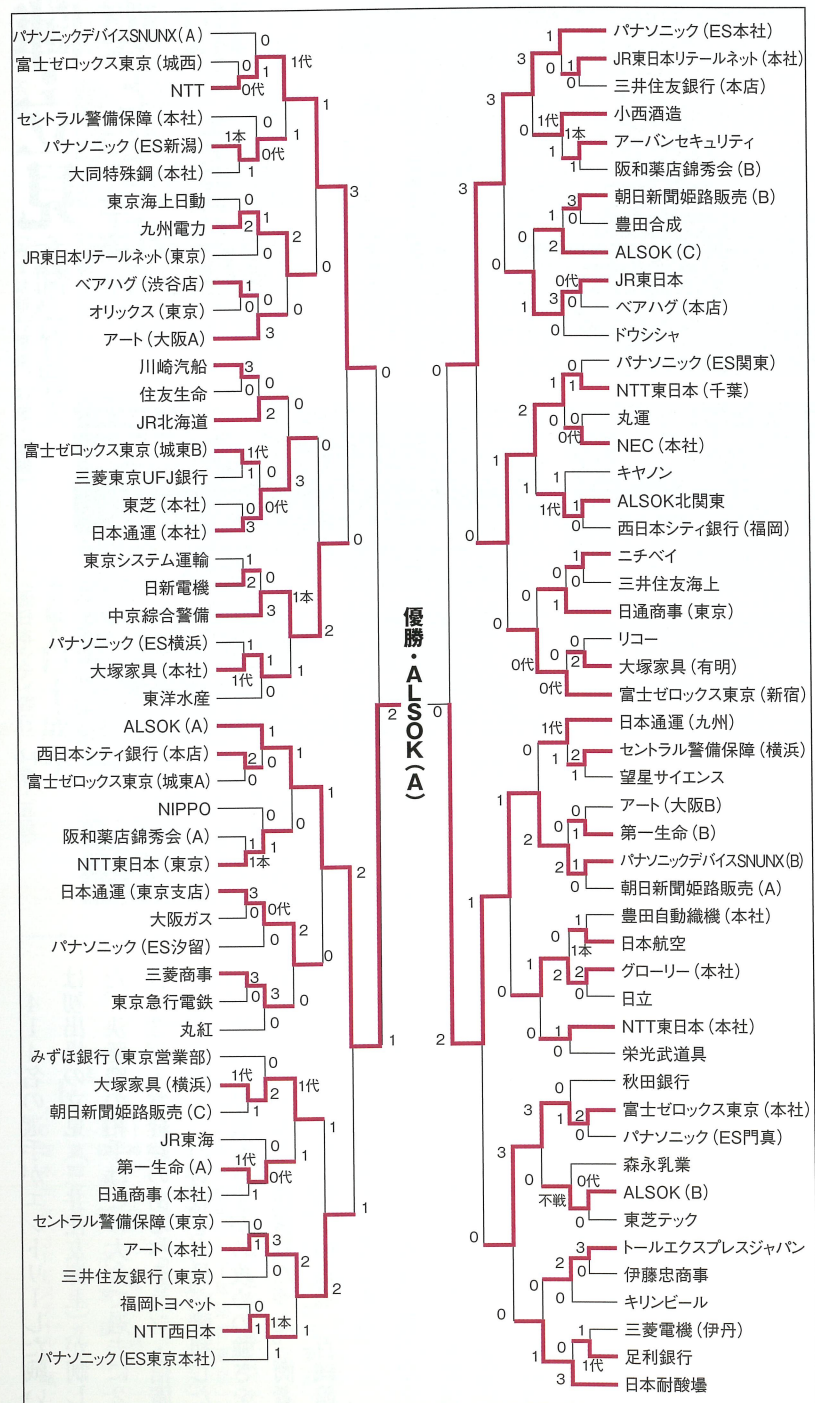




▲決勝進出をかけた大将戦は開始からメン、逆ドウと激しく攻めた海保が飯田の手元にコテを打ち込み勝利(写真)。決勝戦への切符をつかんだ

チーム \ 順	先	中	大	得点
ALSOK (A)	平山	角田	海保	1
	〓	〓	⊕	1
NTT				0
	木村	村岡	飯田	0

▲強豪・富士ゼロックス東京(本社)に対して中堅・寛が一本勝ちを挙げたパナソニックがリード。大将戦、追う内山が激しく攻めるも岩崎もここは執念で引き分けに抑えた(写真は両者の攻防)



▲両チームは昨年も準決勝で対戦しており、そこではES本社が勝利したが、今回はデバイスSUNXがリベンジ達成。中野のメンをコテで打ち取った寛が勝利を決めた(写真)

チーム \ 順位	先	中	大	得点
パナソニック デバイス SUNX (B)	因幡	筧	岩崎	2
	㊗	㊖	✂	2 0
パナソニック (ES本社)	木下	中野	藤山	0



▲鹿屋体大の東が早くも実業団参戦。上原との相メン勝負で先制を許したが、二本目となるやすぐさま片手ツキで一本(写真)。勝負の声がかかると今度はメンに跳び込み、逆転の快勝



2位◆ パソニックデバイスSUNX(B)
岩崎恵美(23歳)、寛恵里佳(23歳)、因幡華子
(23歳)、斉野有希(26歳)。監督＝川野裕司



3位 ◆NTT
飯田愛梨(24歳)、村岡真和(23歳)、
木村織江(24歳)。監督＝高井田誠



3位 ◆ バカソニック (E.S.本社)
藤山枝里佳(24歳)、中野智咲(27歳)、木下春菜(23歳)、倉田綾子(40歳)。監督Ⅱ酒井順也



海保喜美(27歳)、角田百佳利(28歳)、平山絵里(27歳)。監督=遊佐大介



大会の最優秀選手はALSOK(A)の先鋒・平山選手が受賞。チームの切り込み隊長として存分な活躍を見せた



チーム \ 順	先	中	大	得点
ALSOK (A)	平 山	角 田	海 保	2
	㊟メ	㊟		3
パナソニック デバイス SUNX (B)			✕	0
	因 幡	寛	岩 崎	0

▲試合開始から勢いよく仕掛けた平山。スピードある攻めで因幡を翻弄する。出ゴテで先制した平山はその後先を取り続け、最後は跳び込みメンを追加した(写真は一本目のコテ)

女子実業団剣道の日本一を決めるこの戦いに99チームがエントリリーした。近年この大会では、富士ゼロックス東京（本社）が第11回大会（平成20年）、第12回大会（平成21年）と連覇、大塚家具（本社）もまた第13回大会、第14回大会と連覇を成し遂げている。昨年優勝を果たしたのはパナソニック（ES本社）。連覇も期待されたこのチームは今年でもベスト4に進出するもここで同門のパナソニックデバイスSUNX（B）に競り負けた。パナソニックデバイスSUNXは昨年は3位。前回も同じ準決勝でES本社に敗れており今回は見事リベンジ達成となった。

一気に頂点に立ちたいパナソニックデバイスSUNXだったが、そこに立ちはだかったのがALSOOK（A）だった。先鋒に昨年開催された第51回全日本剣道女子選手権大会でベスト8に進んだ平山を据えた強力なチームは、決勝戦でも実力発揮。先鋒、中堅の連勝で同社としては4度目となる日本一に輝いた。

優勝は平成7年（第6回）以来となるALSOOK。遊佐大介監督は「近年力がある選手が揃っていたがなかなか結果が伴わなかった。選手が各自の役割をまっとうしてくれたことが優勝の要因です」と喜びを語った。



試合の一部映像を剣道ナビにて
ご覧になることができます。



優勝◆田邊 勉
(千葉銀行、56歳・五段)



【決勝】
田邊(千葉銀行)〇― 岩本(望星サイエンス)
▲準決勝までの試合では豪快な技を見せていた岩本。ここでも上段に臆せず攻め込んだが、田邊は岩本の技を見切つて抜きで先制(写真)。その後は岩本も猛攻を見せたが、田邊も自分のペースを守り切り一本勝ちで優勝を決めた



【準決勝】
岩本(望星サイエンス)〇― 白土(西日本シティ銀行)
▲岩本の放ったコテメンの連打が力強い。白土も真つ向勝負で両者の技が何度か交錯する。白土がコテを狙って出てきたところ、これにひるまず放った岩本のメンが見事に一本となった(写真)。両者は時間いっぱいまで積極的に打突を交わした



【準決勝】
田邊(千葉銀行)〇― 葉野(大阪ガス)

▲田邊の上段を崩さんと葉野は連打で攻め立てる。田邊のコテを返しメンで応じた場面などは惜しかったが、田邊もジワジワと攻め返し、最後はコテ抜きで決着をつけた(写真)



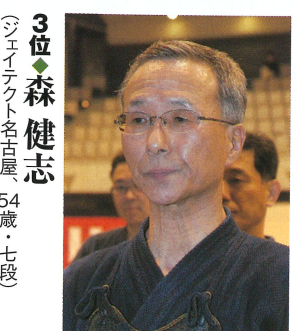
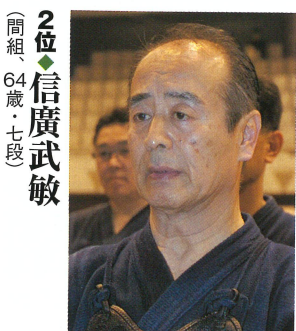
【準決勝】
田邊(千葉銀行)〇― 大竹(みずほ銀行東京)

▲決勝進出をかけた戦いは、田邊の充実ぶりが際立った。立ち上がりはほとんど片手メンで先制すると(写真)、その後は大竹の起こりを誘って抜きメンを追加。勢いのある二本勝ちだった

2位1回、高壮年五段以下の部 3位2回の部 田邊(千葉銀行)が初優勝



優勝◆立見 顕久
(三井住友海上、40歳・七段)



【決勝】
立見(三井住友海上)〇― 信廣(間組)
▲年齢差24歳の勝負となったが、年長の信廣がグイグイと強気の攻めを見せた。一方の立見は若さを活かしてキレのある技で応戦、鮮やかな出はなメンで先制する(写真)。その後も両者積極的な技を出し合い、時間終了を迎えた



【準決勝】
信廣(間組)〇― 森(ジェイテクト名古屋)
▲試合開始からほとんど有効打が発生。信廣のメン打ちが森の出はなを鮮やかにとらえた(写真)。何とか一本を取り返したい森も思い切りの良いメンで攻めたが、これは信廣が枚上手だった。見事な出コテを追加した



【7回戦】
宮本(三井住友海上)メー 谷(NTT東日本東京)

▲全日本選手権大会への出場経験がある名手同士の好勝負。時間内は両者ゆずらず試合は延長戦へと突入した。勝負の一打は上段・宮本の片手メンだった(写真は攻防)



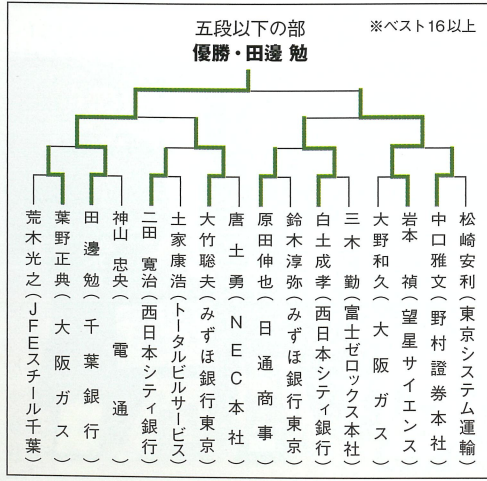
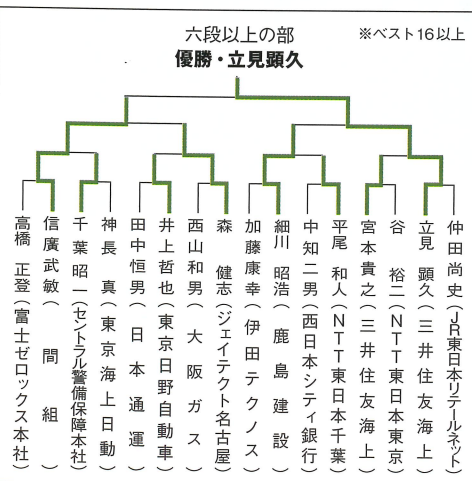
【準決勝】
立見(三井住友海上)〇― 細川(鹿島建設)

▲細川が放った出コテが何度かいい機会をとらえる場面があったが旗はない。一方の立見は迫力あるメン技で細川を攻め立て時間終了直前にこれを一本とした(写真)

初陣・立見 三井住友海上 颯爽と栄冠を奪取 高壮年六段以上の部

414名の選手がエントリーした戦いは初出場の立見(三井住友海上)が制した。決勝戦の相手はこの大会で過去に2位、3位入賞経験のあるベテラン・信廣。年齢差のあるこの対戦を立見が勝利したが、敗れた信廣もさすがの攻めの強さを存分にアピールした決勝戦だった。両者は日頃より三井住友海上の道場・百錬館にて稽古を積み重ねたそうである。

初出場にして見事に初優勝を飾った立見。戦績豊富な強豪選手だけに、これは狙いどおりの結果かと思いきや、「今日は先制されて残り1秒で追いついた試合などもあり本当に厳しい戦いが多かった。大会前には先輩であり優勝経験者の宮本(貴之)さんから『お前が優勝するんだ』と檄をいただき戦いに臨みはしましたが、一戦一戦を大切に戦った結果というのが正直な印象です」と全9試合の大激戦を振り返った。



284名の選手がエントリーしたこの部門も初優勝者が誕生した。

決勝戦を戦ったのは上段の田邊(千葉銀行)と力強い技で会場を沸かせた岩本(望星サイエンス)。試合は、岩本の攻めを讀んで巧みな技で打ち取った田邊がそのまま一本勝ちで制した。

田邊は過去にもこの大会で2位1回、3位2回の入賞経験のある強豪で、出場回数もすでに10回を超えるベテラン選手である。今回のうれしい初優勝には「初めて出場した時に3位に入賞し、その後に2位になった時には『いつかは優勝できるだろう』と思っていたのですが、この2年間は一回戦負けが続いていました。もう勝てないのかなとあきらめかけていたのですがまさか優勝できるなんて……。試合というのは本当に不思議なことが起きますね」と自身も驚きの表情を見せていた。